

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービスあつがる
------	----------------

公表日

2025年 9 月 10 日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	設計の段階で十分なスペースを確保し、基準の4.2倍の床面積を有している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	利用定員に対して保育士等2名以上、児発管専従1名以上のところ、保育士3名、児童指導員1名、児発管専従1名を配置している。	学年が上がると男性の指導も必要になる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	こどもにわかりやすいようにお部屋の名前が書いており、構造化された環境になっている。床面はバリアフリーになっており、情報伝達についてはホワイトボードやタイムタイマー電子黒板などを適宜使用して配慮している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	毎日徹底した清掃を行い、空調を整え心地よく過ごせる空間になっている。子どもたちの活動に合わせた空間となっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	一人になりたいときなどには静養室を利用することが出来る。	
業	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	0	毎月の職員会議や支援会議など職員が参加している。会議や行事のふりかえりなどで反省点を職員でよく話し合う体制が整っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	年に2回保護者向け評価表により評価を行っていただき、結果を公表、ご指摘のあった事柄については改善するようにしている。	

未 務 改 善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	毎月の職員会議で日常業務分掌について改善点を上げていただいている。また、送迎車出発前に振り返りの時間を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	第三者委員会において外部評価を行い、改善点については改善するようにしている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	毎月事業所内研修を行い、その他外部の研修に参加している。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	支援プログラムについては利用児童の意見を交えながら適宜作成、法人のホームページや毎月のおたよりにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	0	年2回以上、児童面談及び保護者モニタリング・保護者面談を行い、ニーズや課題を客観的に分析した上で個別支援計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	毎月の支援会議において職員の共通理解を図りながら、子どもの最善の利益を考慮して作成している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	職員全員が計画を共有し、適切な支援が行われている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	発達外来で発達検査を行ってもらっており、標準化されたツールを用いて行われている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	全て適切に設定され、具体的な支援内容が設定されている。本人支援のみならず、小集団支援で行う5領域に基づいた計画を毎月計画し実行している。反省点は改善している。	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	直接処遇職員全員で行っている。年・月・日案を全職員で把握し、話し合う機会がある。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	様々な要素を組み合わせた上でプログラムを設定し、子どもたちの意見も交えてプログラムを工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	一日の中で個別活動と集団活動を組み合わせて支援し、その中でもお子さまの状況に応じて柔軟に対応している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	毎日の朝礼で打ち合わせを行い、それぞれの役割分担について確認を行いチームで連携して支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	1	帰りの送迎車出発の前に気付いたことなどを話し合い、送迎後にも振り返りが行われている。	振り返りの時間は常勤職員は多く取れるが、非常勤職員だと多く取りにくい時もある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	毎日の記録には支援アプリを使用し、毎日ケース記録を作成している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	年2回の保護者モニタリングの他、保護者面談を行い保護者の意向を反映するようにしている。また、相談支援専門員によるモニタリングを定期的に行い、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	5	0	自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供のすべてを組み合わせさせて支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	子ども会議で意見を取り入れたり、様々な参加不参加を自分で決めたりしている。天候による行事内容の変更がある時などには、子どもたちの意見から活動内容を決める様にしている。	
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	実際支援に携わっている者が参画している。児発管に加えて保育士も参加している。		

関係機関や保護者との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1	障害福祉や学校、保育との連携は行っているが、その他の機関とは保護者様を通じて行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	学校から年間計画や行事、下校時刻表などを頂いている。連絡調整は適宜行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	0	担当者会議を行うなどして、子どもの対応や環境についてより深く理解し支援するために情報共有に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	1	情報提供を適切に行い、機会があれば行いたい。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5	0	研修には積極的に参加しており、モニタリングの際にも助言等を受ける機会がある。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	事業所としての交流は行っていないが、各自放課後児童クラブや児童館に所属して地域のこどもと活動している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	気になる行動があった時には、その都度連絡帳や電話、口頭で伝えて共通理解を図るようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	5	ペアレントトレーニングはしていないが、ペアレントトレーニングの研修を受けてそれに即した相談援助をしている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	契約時にわかりやすい言葉で丁寧に行っている。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	年2回、児童面談や保護者モニタリング、面談を行うことによって家族の意向や意思を確認している。説明をして同意してもらっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	保護者面談で同意を得て行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	相談があれば適宜応じている。登校しぶりや子どもへの対応相談を受け、保護者の話を傾聴し最終目的が達成できる助言をしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	5	要請があれば行いたい。	地域の祭りやレクを企画し、家族で参加できる機会があっても良い。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	苦情があったらその場で迅速に対応している。状況に応じて上司に相談し、対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	0	毎月おたよりの発行、ホームページを作成して発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	個人のファイルは鍵のかかる場所に保管し、職員間で守秘義務の徹底を図るなどして留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	分かりやすい言葉でお伝えするようにしている。また、ノートでわかりやすく伝える事に努めているが、口頭でも伝えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	0	毎月事業所を開放する日を設け地域に開かれた事業運営を行っている。ヨガ教室を無料で行うことで地域の方々が来所しやすくなっている。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	各種マニュアルを策定、玄関や事務室などのいつでも見られる場所に設置し、毎月の避難訓練や安全計画に基づいて訓練している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	業務継続計画を策定し、非常用電源や飲料水、食料、非常用トイレなどを備蓄し、毎月避難訓練を行うとともに子どもたちにはペットボトルの開け方などの訓練も行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	契約時と4月に確認している。職員間で情報を共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	0	アレルギーのあるお子さまについては医師の指示書の提出をお願いしている。職員間で共通理解している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	安全計画に関する研修を毎月定期的に行い、安全管理が十分された中で支援を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	安全計画に基づく取り組み内容については5月にお手紙を渡して周知している。子どもの緊急時に対応できるように緊急連絡簿を作成し、家族との連携が取れるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	活動中に起きた出来事や事故等は、文書にして職員で共通理解し、再発防止について話し合い、改善していくようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	入職時及び年に2回以上の虐待の防止のための研修を行っている。その際、適切な対応が出来るよう職員間で話し合っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	0	一人になりたいときなどに静養室を利用できる旨個別支援計画書に記載し、十分説明をしてから保護者様の同意を得ている。マニュアルを作成し、保護者にも周知している。		